

# ジャンル別アレンジ & モックアップ ボサノバ

## ボサノバとは？

1950年代後半、ジョアン・ジルベルトら**ブラジルのミュージシャンの間で新しいスタイルの音楽として発祥**。「イパネマの娘」の米国でのヒットから一般的に浸透していく。

現在、本国では「過去の音楽」となっているが、日本ではカフェミュージックとして未だ人気が高く、本国ブラジルよりマーケットとしては大きい。

ボサノバではスチール弦ではなく、ナイロン弦を張ったガットギターが使われる。

本章のデモ曲も全てガットギター系の音源を使用した。

# ボサノバのアレンジと打ち込み

## ① 王道系ボサノバ楽曲

参考曲：イパネマの娘 / ジョアン・ジルベルト、スタン・ゲッツ

## ② マイナー系ボサノバ楽曲

参考曲：どうぞこのまま / 丸山圭子

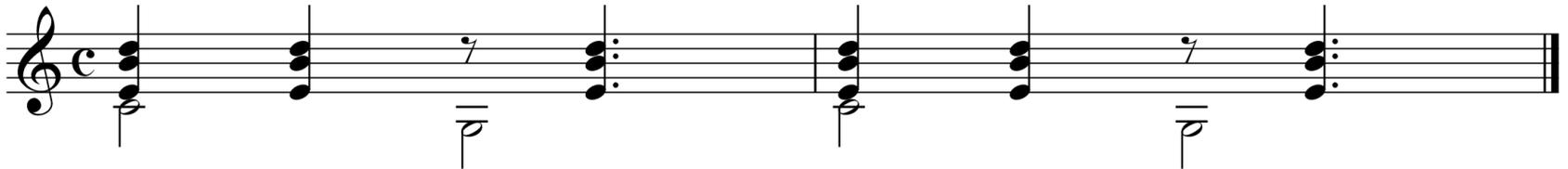
## ③ サンバ寄りボサノバ楽曲

参考曲：ワン・ノート・サンバ / アントニオ・カルロス・ジョビン

# ボサノバの基本パターン

## ■ ボサノバ パターン1

Cmaj9



## ■ ボサノバ パターン2

Cmaj9



ベースを二分音符で鳴らしながら、合間に絡むように和音を刻む。  
ベースはルートのみの場合と、5度でランニングする場合がある。

# ①王道系ボサノバ楽曲

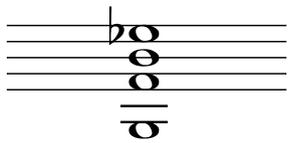
『イパネマ』のような、王道のボサノバ楽曲を想定。  
ポップス、ロックに比べるとあまり強弱つけず淡々と弾かれる傾向がある。

The image shows two staves of musical notation for a Bossa Nova piece. The first staff begins with a treble clef, a common time signature (C), and a key signature of one sharp (F#). The melody consists of eighth and quarter notes, often beamed together. The piano accompaniment is a steady, rhythmic pattern of chords, primarily triads and dyads, with some chords marked with a 'p' (piano) dynamic. The second staff continues the piece, starting with a measure number '5'. The key signature changes to C major (no sharps or flats). The piano accompaniment continues with similar chordal textures, including some chords marked with a 'p' and others with a 'b' (basso) dynamic. The notation includes various chord symbols above the staff: Cmaj9, D9, Dm9, G7(b13), Cmaj9, Db9, and Cmaj9.

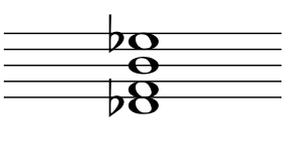
# コードについて

Maj9、m9、b13などテンションコードの使用が多い。5小節目のドミナント「G7(b13)」はサブスティテュートドミナント(通称「裏コード」)である「Db9」を使うことも多い。ルートは違うが構成音はほぼ同じ。

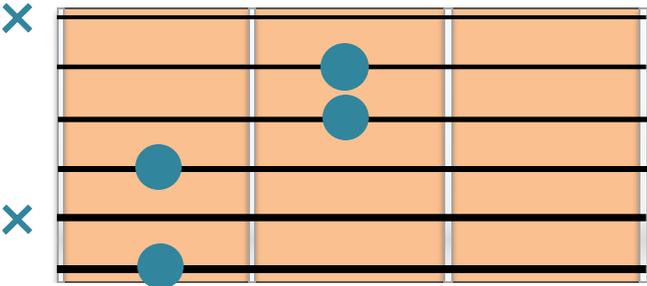
G7(b13)



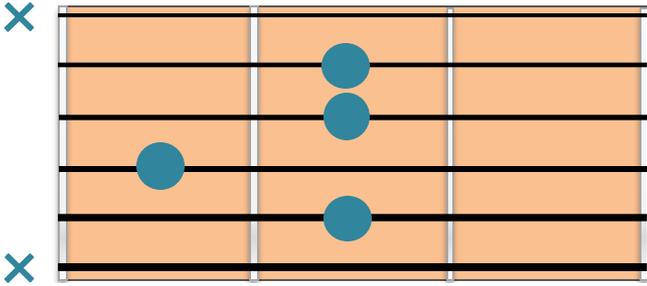
Db9



3f 4f 5f



3f 4f 5f



# 打ち込みのポイント

The image shows a screenshot of a music notation software interface, likely MuseScore, displaying a piano accompaniment. The score is written on a grand staff with treble and bass clefs. The piano part is represented by vertical stems and beams. Annotations include:

- A box labeled "スタッカート" (Staccato) with arrows pointing to four specific notes in the piano part.
- A box labeled "軽いアクセント" (Light accent) with circles around five notes in the piano part.
- A box containing the text: "これまで同様、ベロシティやタイミング、デューレーションはランダムにずらしましょう" (As usual, velocity, timing, and duration should be randomized).
- A box containing the text: "ベース音はやや弱目 全体的に淡々と" (Bass notes are slightly softer, overall light).

## ②マイナー系ボサノバ楽曲

『どうぞこのまま』のような、ボサノバベースの歌謡曲～ニューミュージック曲を想定。本国のボサノバに比べると日本らしい哀愁のあるコードやメロが見られる。

Em Em(maj7) Em7 Em6 Am Am(maj7) Am7 Am6

5 F#m7(b5) B7(#9) B7(b9) Em9 B7(#9) Em9

# 打ち込みのポイント

1~2小節目は高音部の下降クリシェ  
3~4小節目は内声の下降クリシェ  
6~7小節目 #9 → b9 はオルタードテンション  
最後のキメはジャズ等で流行ったリズム

これまで同様、ベロシティやタイミング、  
デュレーションはランダムにずらしましょう

### ③サンバ寄りボサノバ楽曲

『ワン・ノート・サンバ』のような、テンポの早いボサノバ楽曲を想定。  
リファレンス曲同様、コードに拘らず同じ音のメロディが続く。

Melo

Gt.

5

Melo

Gt.

Chords: Emaj7, F°7, F#m11, G°7, E(add9)/G#, G13, F#m11, F7(#11), Emaj7, A9, Emaj7

# パターンの特徴

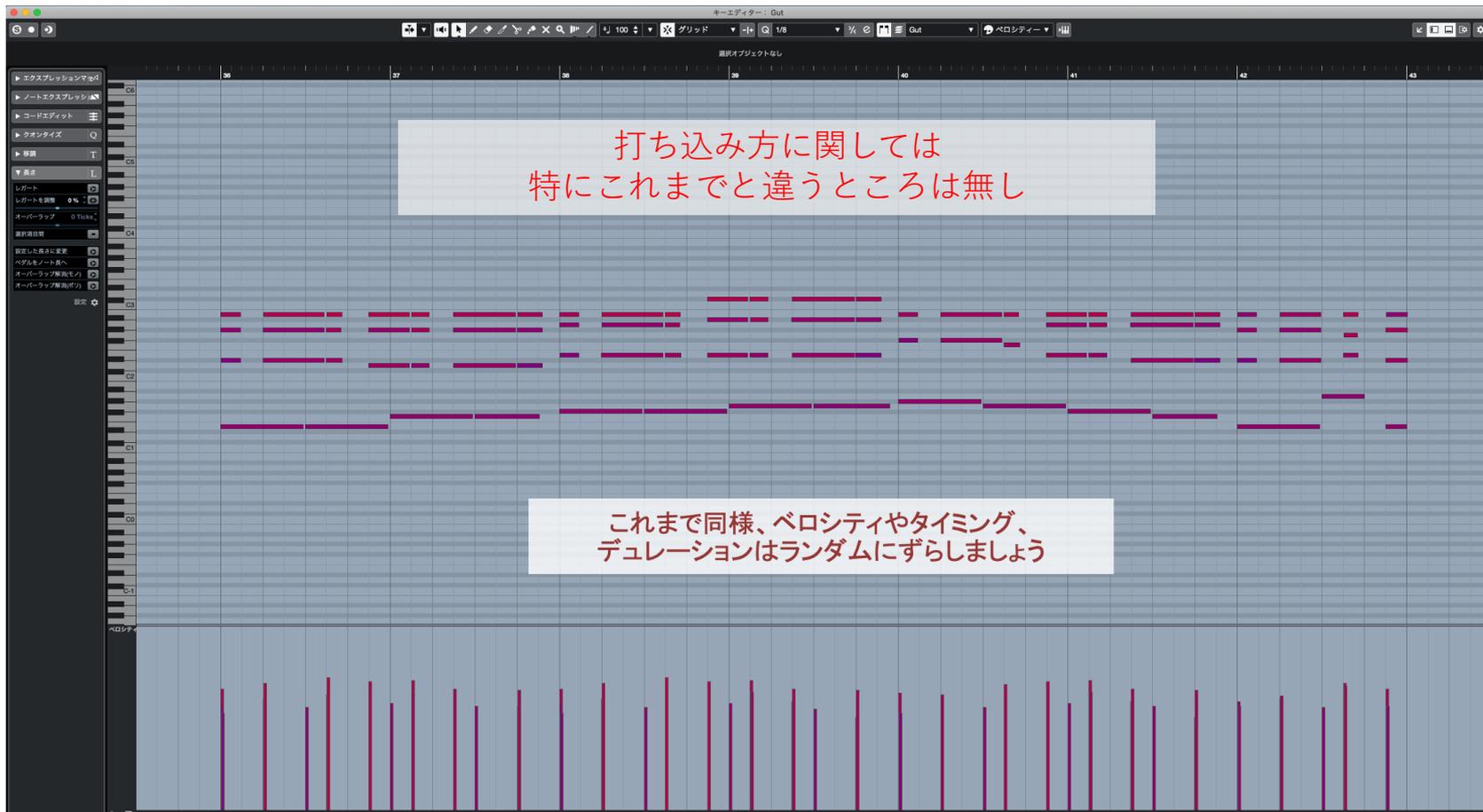
ルートがEから半音ずつ上昇、IとII<sub>m</sub>の間、II<sub>m</sub>とIV<sub>m</sub>の間はそれぞれ  
ディミニッシュコードで繋いであり、  
この用法を「パッシング・ディミニッシュ」と言う。  
ボサノバに限らずさまざまなジャンルで用いられる。

一方、5小節目からの下降パターンではディミニッシュを使わず、  
「G13」「F7(#11)」というテンション感の強いコードを使って前半とは違う  
緊張感を出している。こういった進行はボサノバやジャズでもよく見られ、  
複雑な音遣いながら独特なオシャレな雰囲気が出せる。

7小節目のキメは60年代後半のボサノバやジャズで流行ったリズム。  
ブルースやジャズなら「E7-A7-E7」と進行しそうな所だが、  
「Emaj7-A9-Emaj7」と進行するところがボサノバらしい。

ボサノバのトニックではダイアトニックコードよりも  
「maj7」「maj9」「6」などがよく使われる。

# 打ち込みのポイント



打ち込み方に関しては  
特にこれまでと違うところは無し

これまで同様、ベロシティやタイミング、  
デュレーションはランダムにずらしましょう